

# 語料庫及『分類語彙表』中「口」的考察

李毓清

實踐大學應用外語學系助理教授

## 摘要

本研究以有眾多語彙量的語料庫『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)(以下稱為 BCCWJ)及『分類語彙表增補改訂版(Word List by Semantic Principles, Revised and Enlarged Edition)』(以下稱為『分類語彙表(Word List by Semantic Principles)』)中「口」的語彙為考察對象，考察方法為抽出兩者的「口」的用例；有關兩者間「口」的唸法、語彙構造、語義用法是如何表現將作探討。

關於口的唸法：以口(くち <sup>くち</sup>kuchi)開頭的語彙(口<sup>くち</sup>～)稱為 A1，以口(くち <sup>くち</sup>kuchi)結尾的((<sup>くち</sup>～口、<sup>くち</sup>～口))稱為 A2，以口(こう <sup>こう</sup>kou)開頭的語彙(口<sup>こう</sup>～)稱為 B1，以口(こう <sup>こう</sup>kou)結尾的(～口<sup>こう</sup>)稱為 B2，而以口(く <sup>く</sup>ku)發音的則稱為 C；A1、A2、B1、B2、C 合稱 5 種 types。

調查結果：5 種 types 唸法的語彙量順序，BCCWJ 為 A2 > A1 > B2 > B1 > C；『分類語彙表』為 A1 > A2 > B1 > B2 > C。而語彙構造有 28 種句型，其中「口(くち <sup>くち</sup>kuchi、こう <sup>こう</sup>kou) + 漢字 <sup>kannji</sup>kannji」、「漢字 <sup>kannji</sup>kannji + 口(くち <sup>くち</sup>kuchi、こう <sup>こう</sup>kou、く <sup>く</sup>ku)」的句型使用情形較多。語義用法則有 21 種，5 種 types 都有使用的為<說話>的用法、口的基本語義<口>使用率也很高；獨特的語義用法有大小(size)、手續費、藥品、種類等等。

關鍵詞：口、唸法、語彙構造、語義用法

受理日期：2024 年 03 月 04 日

通過日期：2024 年 05 月 24 日

DOI：10.29758/TWRYJYSB.202406\_(42).0009

# **An Investigation of “KUCHI” in the Corpus and “Word List by Semantic Principles”**

Li, Yu-Ching

Assistant Professor, Department of Applied Foreign Languages, Shih  
Chien University

## **Abstract**

This paper examines the vocabulary related to “KUCHI” in the “**Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese**” (BCCWJ) and the “Word List by Semantic Principles.” We aim to investigate the reading, structure, and semantic usage of the vocabulary related to “KUCHI” by selecting examples of the use of “KUCHI” from both lists.

As for how to read □ (KUCHI), A1 is the form where the beginning of the word starts with □ (KUCHI ~), while the form where the word ends with □ (~ KUCHI, ~GUCHI ) is A2; the beginning of the word that starts with □ (KOU~) is B1, and the word that ends with □ (~KOU) is B2; the word pronounced as □ (KU) is written as C, giving a total of 5 types, namely A1, A2, B1, B2, and C.

As a result of the survey, in terms of vocabulary size for reading, the order of BCCWJ was ranked  $A2 > A1 > B2 > B1 > C$ , and “Word List by Semantic Principles” was ranked  $A1 > A2 > B1 > B2 > C$ . The vocabulary structure used 28 different forms, in which the forms “(KUCHI, KOU) + KANNJI” and “KANNJI + (KUCHI, KOU, KU)” are frequently used. There are 21 types of semantic usage. The vocabulary related to “speaking” adopts all 5 types of reading, and the basic meaning of “KUCHI” is also frequently used. The unique semantic usages include “size,” “fees,” “medicines,” and “types,” etc.

**Keywords:** Kuchi, Reading, Vocabulary Structure, Semantic Usage

# コーパスと『分類語彙表』における「口」の考察

李毓清

実践大学応用外国語学科助理教授

## 要旨

本論は語彙データ量が多いコーパス『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下は BCCWJ) と『分類語彙表増補改訂版』(以下は『分類語彙表』) における「口」の語彙を考察対象として、両者の「口」の用例を抽出し、「口」に関する語彙の読み方、構造、意味用法がそれぞれどのようなものであるかを究明した。

口の読み方については、便宜上、語頭が口(くち)で始まる形(口<sup>くち</sup>～)を A1、語尾が口(くち・ぐち)で終わる形(～口<sup>くち</sup>、～口<sup>ぐち</sup>)を A2、語頭が口(こう)で始まる形(口<sup>こう</sup>～)を B1、語尾が口(こう)で終わる形(～口<sup>こう</sup>)を B2、口(く)と発音する形を C と表記し、A1、A2、B1、B2、C を合わせて 5 タイプとした。

調査した結果、読み方の語彙量に関して、BCCWJ は  $A2 > A1 > B2 > B1 > C$ 、『分類語彙表』は  $A1 > A2 > B1 > B2 > C$  の順位であった。語彙構造は 28 種の形が使われていて、「口(くち、こう) + 漢字」「漢字 + 口(くち、こう、く)」の形式が多用されていた。意味用法の種類は 21 あり、5 タイプすべてで使われていたのは <話・話し方> であるほか、口の基本義である <口> も多用されていて、独特な意味用法としては大きさ、手数料、薬、種類などがあつた。

キーワード：口、読み方、語彙構造、意味用法

# コーパスと『分類語彙表』における「口」の考察

李毓清

実践大学応用外国語学科助理教授

## 1. はじめに

日常生活で「口」に関する語彙は下記 1～5 のように「口元」「甘口」「口演」「糊口」「口説く」などが用いられている。これらの「口」の読み方には「くち（口元、甘口）」「こう（口演、糊口）」「く（口説く）」があり、語彙構造は「口（くち）～」「口（こう）～」「口（く）～」という語頭形式と「～口（くち）」「～口（こう）」という語尾形式が見られる。そして、意味用法は身体部位詞の基本義である口（口元）、味（甘口）、生活（糊口）、話し・話し方（口演、口説く）が使われている。

1. 「一カ月くらい前に辞めたわ」ナターシャは思わず口元がほころんで満面の笑みを浮かべた。（フィオナ・マウンテン著；竹内さなみ訳『死より蒼く』, 2004, 933）
2. 外国のマヨネーズは甘口に感じませんか？それに比べたら日本のは酸っぱすぎる気がした。（Yahoo! 知恵袋, 2005, 料理、グルメ、レシピ）
3. ■■さんの講話のほかに女流講談師による口演も聞けますのでぜひご参加ください。（広報あげお, 2,008, 埼玉県）
4. 現在はアルバイトで糊口をしのいではおりますが父も昨年定年を迎えました。（Yahoo! 知恵袋, 2005, 就職、転職）
5. 私の聞きたいのは、民法上、慣習法上、私が彼女を口説く事に何か問題があるか。（Yahoo! 知恵袋, 2005, 冠婚葬祭）

本論は語彙データ量が多いコーパス『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下は BCCWJ）と『分類語彙表増補改訂版』（以下『分類語彙表』）における「口」の語彙を考察対象として、両者の「口」の

用例を抽出し、「口」に関する語彙の読み方、構造、意味用法<sup>1</sup>がそれぞれどのようなものであるかを究明したい。また、「口」の読み方の分布状況や、BCCWJと『分類語彙表』間の類似点と相違点をも比較したい。

宮地（1982）は目・顔・口・手などで構成された慣用句はひげ・指・爪・腕などに関する慣用句と比較ならないほど多いと論じている。そうだとすると口に関する語彙学習は欠かせないと言え、本論がそれに貢献できよう。

日本語の教育現場において、指導者が身体部位詞「口」に関する語彙を教える際に、読み方は「くち」だけではなくて、語頭には「くち」「こう」「く」で始まる読み方、語尾には「くち」「ぐち」「く」で終わる読み方があり、意味用法に関しても、単なる「身体部位詞」、「話し方」だけではなく、他のユニークな用法も見られることを指導すれば、「口」に対する学習者の認識がより一層深くなるであろう。このような本論の研究結果を日本語学習者の身体部位詞「口」の語彙習得に役立たせることが本論の研究目的である。

## 2. 先行研究

口に関する研究は二言語の意味拡張（ラダポーン 2008）、比喩的拡張（河野 2017）の対照研究、メタファーとメトニミーの観点から「口」の慣用表現の分析（田中 2002）、慣用表現の意味拡張（有菌 2008）、「口」の多義構造（三好 2008）、口のコロケーションに焦点を当てて、各品詞別と共起した意味用法と語彙構造を比較したもの（李 2019、2020、2022）などがある。

ラダポーン（2008）は日本語とタイ語の身体部位詞「口」の意味拡張を比較し、二言語に共有している意味用法を言語行為と飲食行為に分け、言語行為はさらに話す能力、話し方、話の内容に、飲食行為は人、味覚、生活の手段・生活、感情、モノの出入りところに

---

<sup>1</sup> BCCWJ はデータ量が多いので、読み方の項目だけを考察し、『分類語彙表』は読み方、語彙構造と意味用法の三つ項目を考察する。

意味拡張されているとしている。なお、日本語の固有の「口」の意味拡張である「先端の部分（切口、糸口など）」「空間（序の口、就職口など）」「時間（秋の口、宵の口）」はタイ語では見られないと述べている。

河野（2017）は日本語の「口」と英語の「mouth」との比喩的拡張を構成語比喩的表現、句全体比喩的表現、物体部分詞の三部分に分けて比較対照した。構成語に関して二言語には「発言・言葉、話し方・言葉遣い（以上は発話器官）、生活する人、一度に話す言葉、一度に口に入れる量（以上は摂食器官）」の重なりがあるとしている。句全体比喩的表現には二言語に「容器、生活、感情」の意味拡張において一致点が見られ、物体部分詞については二言語ともに位置＜空洞部に続く＞、形状＜空隙＞、機能＜出入り＞の特徴があるが、英語には「時間表現（宵の口）」や「抽象的な概念（糸口）」への拡張は見られないと述べている。

田中（2002）は「口」の慣用表現について、メタファーとメトニミーの相互作用の観点から次のように分析した。「口」を含む多くの慣用表現は、一見ばらばらに見えるさまざまなメトニミーやメタファーを含んでいるが、それらの間には、メトニミーがメタファーの基盤を提供するという相互作用が見られる。そして、慣用表現と言ってもばらばらな集まりではなく、相互に結びついてある程度の体系性をなしていることは明らかであると論じている。

また、有菌（2005）は、「口」の意味拡張の場合は行為を行う際の道具（つまり身体部位詞）によって＜行為＞を表し、さらにある行為を行う際に＜人＞＜能力＞＜方法＞などへと意味が拡張しているとした。

三好（2008）は「口」の基本義を「定義」「形状」「位置」「機能」「様態」「包括部位」「被包括部位」の7項目に分け、拡張義を「形状（外部に開いた所、穴、隙間）」、「位置（出入り、出し入れの場所（種類）、物の端・物事の初め、就職・縁組の落ち着く先）」、「機能（味覚・食べ物の好み、食糧を必要とする人数、ものを言うこと、話す

こと（評判）」「様態（摂取の一口（数量などの単位、刀剣を数える語）」の4項目にまとめて、陳述した。

李（2019、2020、2022）は形容詞、形容動詞、名詞、動詞と共起した口のコロケーションの意味用法を比較した。研究の結果、4品詞のすべてにくモノの口＜話・話し方＞が用いられていて、＜落ち着く先＞は「名詞＋口」「動詞＋口」に、＜人・人間＞は「形容動詞＋口」に、＜魚＞＜味＞＜固有名詞＞は「名詞＋口」に限られていたと論じている。

本論はコーパスと『分類語彙表』における口の語彙を研究対象として、それらの意味用法と語彙構造を究明したい。

### 3. コーパスにおける「口」の語彙の考察

#### 3.1 各ジャンルにおける「口」の語彙の調査

表1が示すとおり、BCCWJにおいて「口」の語彙の用例数は79,946例<sup>2</sup>あり、分布している13のジャンル<sup>3</sup>の中で「図書館・書籍」が一番多く、そのあと、「出版・書籍」、「特定目的・知恵袋」、「特例目的・ブログ」などの順で続き、「特定目的・韻文」が一番

表1 13ジャンルにおける「口」の収録数

項目	ジャンル	数	順位	%
1	出版・書籍	22741	2	28.4%
2	出版・新聞	1011	10	1.3%
3	出版・雑誌	3122	8	3.9%
4	図書館・書籍	27240	1	34.1%
5	特定目的・ブログ	5442	4	6.8%
6	特定目的・ベストセラー	3922	6	4.9%
7	特定目的・広報紙	4492	5	5.6%

<sup>2</sup> 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における検索条件は次のとおりである。  
検索文字列：口、対象文字列：短単位、キー表示形式：語。（2022年10月28日閲覧）

<sup>3</sup> 13ジャンルとは、1. 図書館・書籍、2. 出版・書籍、3. 特定目的・ベストセラー、4. 特定目的・ブログ、5. 特定目的・Yahoo知恵袋、6. 出版・雑誌、7. 出版・新聞、8. 特定目的・韻文、9. 特定目的・広報誌、10. 特定目的・教科書、11. 特定目的・国会会議録、12. 特定目的・白書、13. 特定目的・法律である。

8	特定目的・白書	3290	7	4.1%
9	特定目的・国会会議録	1824	9	2.3%
10	特定目的・法律	227	12	0.3%
11	特定目的・知恵袋	5818	3	7.3%
12	特定目的・教科書	637	11	0.8%
13	特定目的・韻文	180	13	0.2%
計		79946		100%

少ない。「出版・書籍」と「図書館・書籍」は用例出現比率がそれぞれ 28.4%、34.1%という高さで、この 2 ジャンルを合わせると 62.5% に達し、他のジャンルの用例数を凌駕する。

### 3.2 各ジャンルにおける「口」の種類と分布状況

口の読み方について、表 1-2 に示すように、便宜上、語頭が口（くち）で始まる形（口<sup>くち</sup>～）を A1、語尾が口（くち・ぐち）で終わる形（～口<sup>くち</sup>、～口<sup>ぐち</sup>）を A2、語頭が口（こう）で始まる形（口<sup>こう</sup>～）を B1、語尾が口（こう）で終わる形（～口<sup>こう</sup>）を B2、口（く）と発音する形を C<sup>4</sup>と表記し、A1、A2、B1、B2、C を合わせて、5 タイプとする。

BCCWJ の 13 ジャンルにおいて 5 タイプの分布状況を本節で究明したい。

表 1-2 「口」の類別と形式の定義<sup>4</sup>

類別	形式	註
A1	口 <sup>くち</sup> ～	語頭が口（くち）で始まる用例
A2	～口 <sup>くち</sup> 、～口 <sup>ぐち</sup>	語尾が口（くち、ぐち）で終わる用例
B1	口 <sup>こう</sup> ～	語頭が口（こう）で始まる用例
B2	～口 <sup>こう</sup>	語尾が口（こう）で終わる用例
C	口～、～口	語頭、語中、語尾が口（く）と発音する用例

表 2 および図 2 に示す通り、5 タイプの語彙用例数は A2（～口<sup>くち</sup>、28149）> A1（口<sup>くち</sup>～、27652）> B2（～口<sup>こう</sup>、11552）> B1（口<sup>こう</sup>～、8830）

<sup>4</sup> 口（く）と発音する用例は少ないので、語頭、語中、語尾で口（く）と発音する用例はすべて C タイプの範疇に属することにする。



>C（口～、3763）の順である。

出版・書籍、図書館・書籍、ベストセラー、韻文の4ジャンルではA1が最多、出版・新聞、出版・雑誌、ブログ、広報誌、国会会議録の5ジャンルではA2がもっと多い、法律、知恵袋の2ジャンルではB1がもっと用例数が多い、白書、教科書2のジャンルではB2が最多である。それに対して、Cは「ベストセラー」を除いた12ジャンルで用例数が最少となった。つまり口（くち）と発音する形であるA1とA2を合わせて9ジャンルが、口（こう）と発音する形であるB1とB2を合わせて4ジャンルの用例数が1位を占めており、BCCWJにおいて口に関する用例の使用状況は口（くち）>口（こう）>口（く）の順位である。

表2 13ジャンルにおける5タイプの分布状況

タイプ ジャンル別	A1 (2) <sup>5</sup>	A2 (1)	B1 (4)	B2 (3)	C (5)	計
出版・書籍	<b>8608</b> <sup>6</sup>	7164	2497	3134	1338	22741
出版・新聞	227	<b>548</b>	79	130	27	1011
出版・雑誌	949	<b>1588</b>	259	219	107	3122
図書館・書籍	<b>11791</b>	8664	1999	3068	1718	27240
ブログ	1718	<b>2700</b>	464	443	117	5442
ベストセラー	<b>1846</b>	1277	248	204	347	3922
広報誌	334	<b>2866</b>	836	455	1	4492
白書	51	498	76	<b>2665</b>	0	3290
国会会議録	147	<b>886</b>	151	636	6	1824
法律	17	24	<b>168</b>	18	0	227
知恵袋	1730	1736	<b>1983</b>	272	97	5818
教科書	132	154	44	<b>304</b>	3	637
韻文	<b>102</b>	44	26	6	2	180
計	27652	28149	8830	11552	3763	79946

<sup>5</sup> ( ) 内の数字は5タイプにおける用例数の順位を示す。

<sup>6</sup> 太字の数字は5タイプに用例数が一番多いジャンルのことを表す。

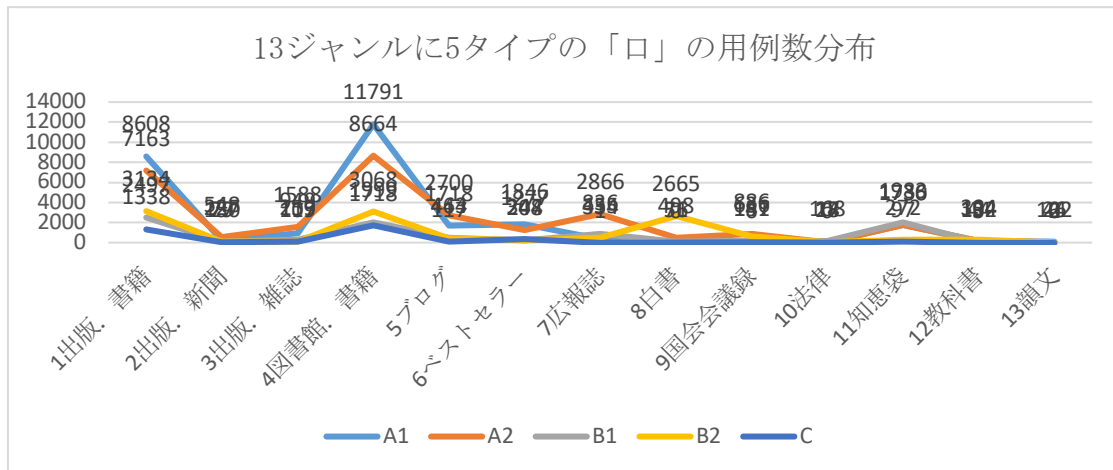


図 2 13 ジャンルにおける 5 タイプの用例数分布

#### 4. 『分類語彙表』における「口」の語彙の考察

『分類語彙表』において、分類番号によって表される意味的範疇は、より広い概念から順に、「類」「部門」「中項目」「分類項目」<sup>7</sup>となっている（『分類語彙表増補改訂版』p3）。ここでは「類別」、「部門別」、「中項目別」それぞれの範疇および 5 タイプの用例分布状況を明らかにしたい。

##### 4.1 5 タイプの語彙用例の分布

『分類語彙表』は約 9 万 6 千語の中に「口」の用例が 392 ある。図 3 が示すとおり、A1 は 137 例（全体の 34.9%）、A2 は 132 例（全体の 33.7%）、B1 は 67 例（全体の 17.1%）、B2 は 46 例（全体の 11.7%）、C は 10 例（全体の 2.6%）あり、語彙用例数の順序は A1 > A2 > B1 > B2 > C の順位である。

5 タイプ全体の語彙用例数に関しては、『分類語彙表』も「BCCWJ」と同じように口（くち）>口（こう）>口（く）の順であるが、下位分布では『分類語彙表』は A1 > A2 > B1 > B2 > C、「BCCWJ」は A2 > A1 > B2 > B1 > C の順となり、差異点が見られる。

<sup>7</sup> 「類」「部門」「中項目」「分類項目」それぞれの意味的範疇は『分類語彙表改訂版』前書きの p 3、p4 を参照。

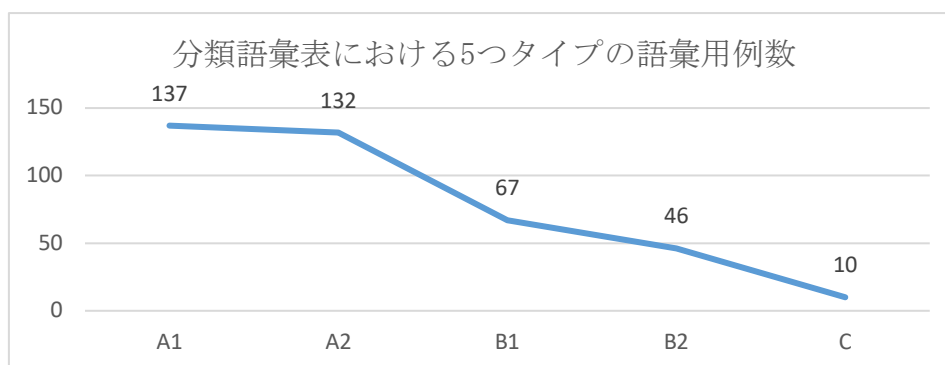


図3 『分類語彙表』における5タイプの語彙用例数

#### 4.1.1 類別における5タイプの用例分布状況

類別の用例分布状況については、表3が示す通り、A1、A2とB2の3タイプではすべて「体の類」「用の類」「相の類」<sup>8</sup>の3類別が使われていて、B1とCは「体の類」「用の類」が用いられているが、「相の類」は使用されていない。

語彙の用例数からみると、A1は「体の類」と「用の類」で8割以上を占め、A2、B1、B2はすべてが「体の類」(80%以上)で多用されていて、Cタイプは「体の類」「用の類」に平均的に分布している。

表3 5タイプの類別比較

項目	体の類	用の類	相の類	計	合計	
A1 口(くち)～	57 (41.6%)	54 (39.4%)	26 (19.0%)	137 (100%)	34.9%	68.6%
A2 ～口(くち)	113 (85.6%)	17 (12.9%)	2 (1.5%)	132 (100%)	33.7%	
B1 口(こう)～	54 (80.6%)	13 (19.4%)	0	67 (100%)	17.1%	28.8%
B2 ～口(こう)	41 (89.1%)	3 (6.5%)	2 (4.3%)	46 (100%)	11.7%	
C 口(く)～	5 (50%)	5 (50%)	0	10 (100%)	2.6%	2.6%
					392 (100%)	

<sup>8</sup> 『分類語彙表改訂版』によると体の類は名称を表す語で、名詞の類。用の類は存在・活動を叙述語で動詞の類。相の類は状態を叙述する語で、形容詞・形容動詞・副詞・連体詞の類である。

#### 4.1.2 部門別における5タイプの用例分布状況

引き続き、各部門における5タイプの分布状況を考察したい。

表4によると、A1とA2はともに5部門、B1、B2は各4部門、Cは1部門で使用されている。

A1、B1、B2の語彙数は<人間活動—精神及び行為>の部門に集中していて、A2は<抽象的關係><人間活動—精神及び行為>の2部門で大きな割合を占めており、Cは<人間活動の主体>の部門でしか使用されていない。

全体的に見ると、5部門の語彙数の順序は「人間活動—精神および行為」(226例、57.7%)>「抽象的關係」(91例 23.2%)>「自然物および自然現象」(35例、8.9%)>「人間活動の主体」(24例、6.1%)>「生産物および用具」(16例、4.1%)である。「人間活動—精神および行為」での使用が最多で、「人間活動の主体」と「生産物および用具」の使用率はあまり高くない。

表4 部門別における5タイプの語彙数の分布状況

部門 タイプ	部門 類別	1. 抽象的關係		2. 人間活動の主体		3. 人間活動-精神および行為		4. 生産物および用具		5. 自然物および自然現象		計	合計
A1	体	17	14	5	5	105	29	6	6	4	3	57	137
	用		2		0		52		0		0	54	
	相		1		0		24		0		1	26	
A2	体	55	55	8	8	48	29	9	9	12	12	113	132
	用		0		0		17		0		0	17	
	相		0		0		2		0		0	2	
B1	体	6	6	0	0	51	38	1	1	9	9	54	67
	用		0		0		13		0		0	13	
	相		0		0		0		0		0	0	
B2	体	13	12	1	1	22	18	0	0	10	10	43	46
	用		1		0		2		0		0	4	
	相		0		0		2		0		0	2	
C	体	0	0	10	5	0	0	0	0	0	0	5	10
	用		0		5		0		0		0	5	
	相		0		0		0		0		0	0	
計		91 23.2%		24 6.1%		226 57.7%		16 4.1%		35 8.9%		392 100%	

#### 4.1.3 中項目別における 5 タイプの用例分布状況

中項目における 5 タイプの用例数は、それぞれ 34、28、17、17、3 (A1>A2>B1=B2>C) で、5 タイプすべてで多く使用されている中項目は<言語>である。そして、<空間><量><心><生活><身体>の中項目が C を除いた 4 タイプで使われている。また、A2 の<形> (上り口、入口、表口、出口など) の中項目における分布量も A2 最多で 38 である。

表 5 中項目別における 5 タイプの分布状況

類別	部門	A1		A2		B1		B2		C
体の類	抽象的関係	七 <sup>9</sup> 15	類 1 様相 4 作用 1 時間 2 空間 2 形 1 量 4	六 52	事柄 1 様相 2 時間 4 空間 3 形 38 量 3	四 6	類 1 様相 1 空間 2 量 2	五 12	作用 1 時間 2 空間 2 形 5 量 2	
	人間活動の主体	一 5	人物 3 成員 2	一 8	人物 1 社会 7	0		一 1	人物 1	
	人間活動—精神および行為	八 29	心 6 言語 9 芸術 2 生活 4 行為 1 交わり 2 待遇 4 経済 2	七 30	心 2 言語 18 生活 1 行為 4 交わり 1 待遇 3 事業 1	七 38	心 7 言語 25 芸術 2 生活 1 行為 1 交わり 1 経済 1	五 18	心 5 言語 8 生活 1 待遇 3 経済 1	言語 5
	生産物および用具	三 6	資材 2 衣料 1 食料 3	二 11	資材 3 衣料 1 道具 7	一 1	食料 1	0		
	自然物及び自然現象	二 3	物質 1 身体 2	六 12	物質 1 動物 1 身体 4 自然 4 天地 1 生命 1	三 9	身体 5 自然 1 生命 3	二 10	身体 1 天地 9	
用の類	抽象的関係	二 2	様相 1 作用 1	0		0		一 1	様相 1	
	精神および行為	五 52	心 2 言語 36 生活 6 交わり 1	三 17	言語 15 交わり 1	二 13	言語 12 交わり 1	二 2	言語 1 生活 1	言語 2 交わり 1

<sup>9</sup> 表 5 における漢字の数字は中項目の数、アラビア数字は各タイプ中項目下位分類の用例数を、太字は A1、A2、B1、B2 とともに使われている中項目を表す。

			り 5 待遇 3		待遇 1					り 3
相 の 類	抽象的 関係	一 1	量 1	0		0		0		
	精神お よび行 為	三 24	心 3 言語 20 行為 3	二 2	心 1 言語 1	0		一 2	行為 2	
	自然物 および 自然現象	一 1	自然 1	0		0		0		
計		三十四 137		二十八 132		十七 67		十七 46		三 10

## 4.2 5タイプ語彙構造の構築

『分類語彙表』に 5 タイプそれぞれの語彙構造(V 二は動詞の連用形、V は原型動詞、A は形容詞、AV は形容動詞を表す。)と用例数がどのように現れて、分布しているかを引き続き究明したい。

### 4.2.1 A1 タイプ (口<sup>くち</sup>～) の語彙構造と用例数

表 6 が示すように、A1 の語彙構造数は、体の類は 2 種、用の類は 5 種、相の類は 9 種、全部で 16 種あり、「相の類」が一番多い。

用例数は、体の類の「口+V 二」と「口+漢字」の形はそれぞれ 10 前後である。用の類で「口を V」の用例が 20 以上に達し、他の語彙構造より多い。相の類の語彙構造の数(9)は A1 で一番多いが、おのおのの用例があまり多くなく、「口+A」「口が A」の形を除いて、他はすべて 5 以下である。

A1 の語彙構造数は相(9) > 用(5) > 体(2) の順である一方、用例数は用の類の「口を V」の形が多用されている。

表 6 A1 タイプ (口<sup>くち</sup>～) の語彙構造と用例数

類別	語彙構造	用例
体 の 類 (2)	口+V 二	口付き、口写し、口当たり、口止め、口開け、口切り、口利き、口寄せ、口取り、口触りなど
	口+漢字	口前、口先、口数、口巧者、口癖、口約束、口絵、口笛、口喧嘩、口紅、口火など
用 の	口+V	口ずさむ、口ごもる、口走る、
	口+V 二	口止めする、口出しする、口移しする、

類 (5)	する	口なめずりする、口減らしするなど
	口に V	口に合う、口に出す、口にのぼる、口にするなど
	口が V	口が肥える、口がほぐれる、口が回る、口が過ぎる、口がおごる、口が掛かるなど
	口を V	口を滑らす、口をついて出る、口を開く、口を割る、口を出す、口を挟む、口を緘する、口を嚙む、口を閉ざす、口を拭う、口を封じる、口を塞ぐ、口を結ぶなど
相の類 (9)	口 + A	口惜しい、口やかましい、口うるさい、口汚い、口さがない、口幅ったいなど
	口 + A 語幹	口早、口軽、口重
	口 + AV	口上手、口下手
	口 + V 二	口任せ
	口が A	口がうまい、口が重い、口が堅い、口が寂しい、口がうるさい、口が悪いなど
	口が V (否定形、中止形)	口が減らない、口が裂けても
	口を V 二 + て	口を極めて
	口 + 漢字	口不調法
他 <sup>10</sup>	口も八丁手も八丁、口当たりのよい	

#### 4.2.2 A2 タイプ (～口・口<sup>11</sup>) の語彙構造と用例数

表 7 A2 タイプ (～口・口) の語彙構造と用例数

類別	語彙構造	用例
体の類 (5)	漢字 + 口	木口、悪口、別口、糸口、秋口、後口、木口、裏口、表口、改札口、勝手口、門口、北口、西口、電話口、非常口、河口、火口など
	漢字の口	今宵の口
	V 二 + 口	語り口、切り口、切れ口、上がり口、入り口、降り口、攻め口、出入り口、出口、逃げ口、吸い口、吹き口など
	A の語幹 + 口	軽口、悪口、広口、甘口、辛口、薄口など
	A + 口	濃い口
用の類 (2)	～口を V	無駄口を利く、大口をたたく、大きな口をたたく、減らず口をたたく、冗談口をたたく、憎まれ口を利く、無駄口をたたく、ため口を利く、陰口を利く、悪口を利く、仲人口を利くなど

<sup>10</sup> 「口も八丁手も八丁、口当たりのよい」2 表現は文法構造をはっきり区切って解釈できないので、「他」として分類する。

<sup>11</sup> A2 タイプの口には「くち」か「ぐち」の2つの読み方があり、体の類において110 くらいの用例のうち、56% 以上は「ぐち」(糸口、入口、無駄口など)と発音する。「～口くち」も「～口ぐち」も前に漢字、動詞を置いている。「後口(漢字 + 口)、降り口(V 二 + 口)以上は～口に属する」「窓口(漢字 + 口)、吹き口(V 二 + 口)以上は～口に属する」。但し、形容詞の語幹 + 口(軽口、悪口、広口、甘口、薄口、辛口)はすべて口(くち)と読む。

	V 二口する	告げ口する
相の類	漢字+口が	後口が悪い
(2)	A	
	漢字+口	無口

表 7 に示す通り、A2 (～口・口) の語彙構造は全部で 9 種あり、体の類は 5 種、用の類と相の類はそれぞれ 2 種ある。語彙構造数は、体の類は用、相の類より多い。

用例数に関しては、体の類の「漢字+口」「V 二+口」「A の語幹+口」には 5 以上の用例があつて、ことに「漢字+口」は 20 以上に達し、一番多く使われている。一方、「漢字の口」(今宵の口)「A+口」(濃い口) のはそれぞれ 1 例しかない。用の類では「～口を V」の用例数が一番多い。この形で使用される動詞はその殆んどが「たたく」「利く」の 2 つで、語彙構造は連体詞(大きな)、A の語幹(悪)、V の連用形(憎まれ)、V の否定形(減らず) など、多様な形で口と共起している。「V 二+口+する」(告げ口する) の用例は 1 つしかない。相の類の語彙構造は「漢字+口が A」「漢字+口」の 2 種があるが、それぞれ 1 用例しかない。

以上の分析により、A2 (～口・口) の語彙構造数は 9 種あり、用例数は体 (5) > 用 (2) = 相 (2) の順であることがわかった。体の類では漢字、形容詞、動詞が口と共起しており、品詞別の使用状況が用の類、相の類より豊かである。用例数は、体の類では「漢字+口」に、用の類では「～口を V」に集中している。相の類は用例が少ない。

#### 4.2.3 B1 タイプ (口～) の語彙構造と用例数

表 8 に示すように、B1 の語彙構造は 3 種だけで、体の類には 1 種、用の類には 2 種あり、相の類には 1 種もない。

表 8 B1 タイプ (口～) の語彙構造と用例数

類別	語彙構造	用例
体の類	口+漢字	口実、口跡、口座、口内、口座番号、口径、口気、口吻、口跡、口実、口話、口頭、 <u>口外</u> <sup>12</sup> 、口上、口語、口頭語、 <u>口述</u> 、

<sup>12</sup> 下線がある漢字は体の類と用の類の間に重なりがあることを表す。



(1)		口語法、口達、口承、口演、口上、口授、口答、口論、口供、口述筆記、口約、口語文、口語体、口碑、口才、口銭、口中薬など
用の類 (2)	口 + 漢字を V	口角泡を飛ばす、口吻を漏らす
	口 + 漢字する	口外する、口述する、口達する、口授する、口承する、口演する、口答する、口論する、口供する、口約する
相の類		

体の類の語彙構造は「口 + 漢字」の 1 種しかないが、B1 用例数の 7 割以上を占めており、使用率が高い。用の類には「口 + 漢字を V」「口 + 漢字する」の用例がそれぞれ 2、6 あり、後者の形で使われている「漢字」(下線)はすべてが体の類の「口 + 漢字」の「漢字」(下線)と重なっている。

以上のように、B1 (口<sup>こう</sup>～) の語彙構造が体 (1 種)、用 (2 種) の類に分布されている。用例数については、体 > 用 > 相の順で、体の類の「口 + 漢字」が高い比率を占めている。なお、用の類の「口 + 漢字する」の漢字は体の類の「口 + 漢字」の漢字と一致性がある。

#### 4.2.4 B2 タイプ (～口<sup>こう</sup>) の語彙構造と用例数

表 9 によると、B2 の語彙構造は 7 種で、体の類は 4 種、用の類は 2 種、相の類は 1 種が認められる。

用例数に関しては、体の類の「漢字 + 口」と「漢字 + 口 + 漢字」を合わせると 30 以上に達し、B2 タイプの 8 割以上を占めているが、「V 二 + 口 + 漢字」と「漢字 + 口の～」はそれぞれ 2 か 1 の用例しかない。用の類と相の類の用例数はすべてで 2 例以下である。

表 9 B2 タイプ (～口<sup>こう</sup>) の語彙構造と用例数

類別	語彙構造	用例
体の類 (4)	漢字 + 口	開口、赤口、突破口、人口、排気口、湾口、銃口、砲口、閉口、火口、河口、火山口、黄口、悪口、糊口、箝口など
	漢字 + 口 + 漢字	人口密度、人口論、人口政策、火口壁、火口原、利口者、緘口令、悪口雑言など
	V 二 + 口 + 漢字	切り口上、逃げ口上
	漢字 + 口 + の～	虎口の難

用の類 (2)	漢字 + 口 + を V	突破口を開く、糊口をしのぐ
	漢字 + 口 + する	箝口する
相の類 (1)	漢字 + 口	小利口、利口

#### 4.2.5 Cタイプ（口<sup>く</sup>～）（～口<sup>く</sup>～）の語彙構造と用例

Cの語彙構造は5種で、表10に示す通り、体の類には2種、用の類には3種あり、相の類にはない。

用例数に関しては、体の類の「口+漢字、漢字+口+漢字」も用の類の「口+漢字する、口+V、V二+口+V」も、用例数はすべて5以下である。

このように、Cは各語彙構造も用例も数が多くない。そして、用の類の「口+漢字する」の「漢字」（下線）も体の類の「口+漢字」の「漢字」（下線）と重なっており、B1と同じである。

表10 Cタイプ（口<sup>く</sup>～）（～口<sup>く</sup>～）の語彙構造と用例

類別	語彙構造	用例
体の類 (2)	口+漢字	<u>口伝</u> 、 <u>口授</u> 、口舌
	漢字+口+漢字	異口同音
用の類 (3)	口+漢字する	<u>口授</u> する、 <u>口伝</u> する、
	口+V	口説き落とす、口説く、
	V二+口+V	搔き口説く
相の類		

#### 4.2.6 5タイプ語彙構造のまとめ

##### 4.2.6.1 類別における5タイプのまとめ

4.2の内容を次のようにまとめる。

- a. A1、A2、B2の用例は体、用、相の類3種に、B1とCは体、用の類2種に分布される。
- b. 語彙構造数の順序は A1 (16) > A2 (9) > B2 (7) > C (5) > B1 (3) で、A1が一番多く、B1が一番少ない（表11に示す）。A1（口<sup>くち</sup>～）の語彙構造は品詞（A、AV、V）、助詞（に、が、を）を多用

し、豊かな形を表すが、B1（口～）は漢字と共起するのみで、わずかに3種の形しかなく、二者には差異性がある。

- c. 語彙構造数に関して、A1は相の類に、A2、B2は体の類に多用されて、Cは平均的に体と用の類に分布され、B1は体、用の類それぞれで1、2の用例がある。

表 11 5タイプ語彙構造数表

類別	A1	A2	B1	B2	C	計
体	2	5	1	4	2	13
用	5	2	2	2	3	14
相	9	2	0	1	0	12
計	16	9	3	7	5	

- d. 口（こう）系（B1+B2）<sup>13</sup>、口（く）系には体の類と用の類の間に漢字が重なる状況があるが、口（くち）系（A1+A2）にはこのような状況はない。

#### 4.2.6.2 語彙構造の形における5タイプのまとめ

表 12 が示すように、5タイプで使用されている語彙構造の形が計28あり、ほとんどの形は1用例しかなく、複数例あるのは「口（くち）+V 二」「口（くち、こう、く）+漢字」「漢字+口（くち、こう）」「口（くち、く）+V」「漢字+口（くち、こう）をV」「口（こう、く）+漢字する」「漢字+口（くち、こう）+漢字」の7形式で、ほとんどが動詞、漢字と共起する形で表される。

また、5タイプに各々多用される語彙構造は、A1は「口をV」、A2は「漢字+口」および「～口をV」、B1は「口+漢字」、B2、Cは「漢字+口」である。

<sup>13</sup> 便宜上、A1とA2を「<sup>くち</sup>口系」、B1とB2を「<sup>こう</sup>口系」、Cを「<sup>く</sup>口系」とする。

表 12 5タイプ語彙構造のまとめ

項目 類別 語彙構造	A1			A2			B1			B2			C		
	体 <sup>14</sup>	用	相	体	用	相	体	用	相	体	用	相	体	用	相
1. 口 + V 二 <sup>15</sup>	✓		✓												
2. 口 + 漢字	✓		✓				✓							✓	
3. 漢字 + 口				✓		✓				✓		✓			
4. 口 + V		✓													✓
5. 漢字 + 口を V					✓						✓				
6 口 + 漢字 する								✓							✓
7 漢字 + 口 + 漢字										✓			✓		
8 漢字の口				✓											
9. A の語幹 + 口				✓											
10. A + 口				✓											
11. V 二 + 口				✓											
12. V 二 + 口 + 漢字										✓					
13. 漢字 + 口 の～										✓					
14. 口 V 二 する		✓													
15. 口に V		✓													
16. 口が V		✓													
17. 口を V		✓													
18. V 二口 する					✓										
19. 口 + 漢 字を V								✓							
20 漢字 + 口 する											✓				
21. 口 + A			✓												
22 口 + A の 語幹			✓												
23. 口 + AV			✓												
24. 口が A			✓												
25 口が V (否定、中 止)			✓												
26 口を V (中止形)			✓												
27. 他			✓												
28. ～口が A						✓									
計	2	5	9	5	2	2	1	2	0	4	2	1	2	2	0

<sup>14</sup> 体、用、相はそれぞれ体の類、用の類、相の類を表す。

<sup>15</sup> 太字は複数の例がある語彙構造を表す。

### 4.3 5タイプにおける「口」の意味用法

#### 4.3.1 A1タイプ（口<sup>くち</sup>）の意味用法

表 13 が示すように、A1タイプには<口><話・話し方><人・人間><物事の初め><味覚・味><絵><音><化粧品><友人などの誘いがあること><生活><様子・態度><残念>の計 12 の意味用法がある。体、用、相の類では、そのすべてで<話・話し方><味・味覚>の意味用法<sup>16</sup>が使用されていて、<話・話し方>はすべての語彙構造で使われている。そして、<絵><音><化粧品><残念><友人などの誘いがあること>は A1 に限って使われている。以上のように、A1タイプでは<話・話し方>が多用されている。

表 13 A1タイプ（口<sup>くち</sup>）の意味用法

類別	語彙構造	意味用法（用例）
体の類 (2)	口 + V 二	口（口付き） 話・話し方（口止め、口写し） 人・人間（口利き、口寄せ） 物事の初め（口切り、口開け） 味・味覚（口当たり、口触り、）
	口 + 漢字	口（口先） 話・話し方（口前、口数、口癖、口約束） 人・人間（口巧者） 絵（口絵）、音（口笛）、化粧品（口紅） 物事のきっかけ（口火）
用の類 (5)	口 + V	話・話し方（口ずさむ、口ごもる、口走る）
	口 + V 二 する	話・話し方（口止めする、口出しする、口移しする） 人・人間（口減らしする）
	口に V	味・味覚（口に合う） 話・話し方（口に出す、口にのぼる、口にする）
	口が V	味・味覚（口が肥える、口がおごる） 話・話し方（口がほぐれる、口が回るなど） 友人などの誘いがあること（口が掛かる）
相の類 (9)	口を V	話・話し方（口を滑らす、口を割る、口を出す、口を挟むなど） 生活（口を濡らす、口を糊する） 様子・態度（口を拭う）
	口 + A	残念（口惜しい） 話・話し方（口やかましい、口汚いなど）
	口 + A 語幹	話・話し方（口早、口軽、口重）
	口 + AV	話・話し方（口上手、口下手）
	口 V 二	話・話し方（口任せ）

<sup>16</sup> A1～C5タイプの意味用法は goo 辞書、Goo 国語辞書を参照する

	口が A	話・話し方（口がうまい、口が重い、口が堅い） 味・味覚（口が寂しい）
	口が V（否定形、中止形）	話・話し方（口が減らない、口が裂けても）
	口を V（中止形）	話・話し方（口を極めて）
	口＋漢字	話・話し方（口不調法）
	他	話・話し方（口も八丁手も八丁） 味覚・味（口当たりのよい）

#### 4.3.2 A2 タイプ（～口）の意味用法

A2 タイプ（～口）には、＜種類＞＜話・話し方＞＜物事の起こるきっかけ＞＜時間＞＜出入り所＞＜口＞＜味・味覚＞の計 7 種の意味用法がある。体、用、相の類のすべてで使用されている意味用法は＜話・話し方＞で、＜種類＞は A2 だけに現れる意味用法である。また、＜出入り所＞は A2 タイプの体の類においてよく使用されている。以上をまとめて表 14 に示す。

表 14 A2 タイプ（～口・口）の意味用法

類別	語彙構造	意味用法（用例）
体の類 (5)	漢字＋口	木材の端・種類（木口）、 話・話し方（悪口） 物事の起こるきっかけ（糸口） 時間（秋口）、種類（別口） 出入り所（裏口、表口、改札口、門口など）
	漢字の口	時間（今宵の口）
	V 二＋口	話・話し方（語り口） 出入り所（切り口、入り口、降り口、攻め口、）
	A の語幹＋口	口（大口、小口） 話・話し方（軽口、悪口） 出入り所（広口） 味・味覚（甘口、辛口、薄口など）
	A＋口	味・味覚（濃い口）
用の類 (2)	～口を V	話・話し方（無駄口を利く、大口をたたく、大きな口をたたく、冗談口をたたく、）
	V 二口する	話・話し方（告げ口する）
相の類 (2)	漢字＋口が A	味・味覚（後口が悪い）
	漢字＋口	話・話し方（無口）

### 4.3.3 B1 タイプ（口<sup>こう</sup>）の意味用法

B1 タイプには、＜口＞＜出入り所＞＜大きさ・サイズ＞＜話・話し方＞＜薬＞＜手数料＞の計 6 種の意味用法が見られ、体、用の類はともに＜話・話し方＞の意味用法が使用されている。A1、A2 タイプと同じように、B1 タイプにもこの用法は多く使われていて、＜大きさ・サイズ＞＜薬＞＜手数料＞の意味用法は B1 タイプでしか使用されていない。

表 15 B1 タイプ（口<sup>こう</sup>）の意味用法

類別	語彙構造	意味用法（用例）
体の類 (1)	口＋漢字	口（口内、口唇裂、口腔、口内炎など） 出入り所（口座 <sup>17</sup> ） 大きさ・サイズ（口径） 話・話し方（口実、口跡、口気、口吻など） 薬（口中薬） 手数料（口銭）
用の類 (2)	口＋漢字をV	話・話し方（口角泡を飛ばす、口吻を漏らす）
	口＋漢字する	話・話し方（口外する、口述する、口達する、口授する、口承する、口演するなど）
相の類		

### 4.3.4 B2 タイプ（～口<sup>こう</sup>）の意味用法

表 16 が示すように、B2 タイプの意味用法は＜口＞＜時間＞＜人・人間＞＜出入り所＞＜話・話し方＞＜生活＞＜専有名詞＞＜命令＞＜状況＞＜様子＞の計 10 種がある。体の類の意味用法数は用の類、相の類より多い。なお、このタイプの意味用法では＜話・話し方＞＜出入り所＞の使用状況がほかの意味用法より多用されている。＜専有名詞＞＜命令＞＜状況＞はこのタイプに限って使われている。

<sup>17</sup> 「口座」は、「お金が出入りする出入口」「お金を出し入れする箱」のように捉えることができる。<https://support.freee.co.jp/hc/ja/articles/12626311833753-2-2-%E5%8F%A3%E5%BA%A7-%E3%81%A8%E3%81%AF>

表 16 B2 タイプ (〜<sup>こう</sup>口) の意味用法

類別	語彙構造	意味用法 (用例)
体の類 (4)	漢字+口	口 (開口、閉口)、時間 (赤口) 人・人間 (黄口、人口) 出入り所 (突破口、排気口、湾口、銃口など) 話・話し方 (衆口、悪口、箝口、悪口) 生活 (糊口)
	漢字+口 +漢字	専有名詞 (人口論、火口壁、火口原など) 人・人間 (利口者)、口 (軟口蓋) 命令 (緘口令) 話・話し方 (悪口雑言、開口一番)
	V 二+口 +漢字	話・話し方 (切り口上、逃げ口上)
	漢字+口 +の〜	状況 (虎口の難)
用の類 (2)	漢字+口 +をV	出入り所 (突破口を開く) 生活 (糊口をしのぐ)
	漢字+口する	話・話し方 (箝口する)
相の類 (1)	漢字+口	様子 (小利口、利口)

#### 4.3.5 C タイプ (口<sup>く</sup>〜、〜<sup>く</sup>口) の意味用法

表 17 C タイプ (口<sup>く</sup>〜) (〜<sup>く</sup>口) の意味用法

類別	語彙構造	意味用法 (用例)
体の類 (2)	口+漢字	話 ・ 話 し 方  (口伝、口授、口舌) (異口同音)
	漢字+口+漢字	
用の類 (3)	口+漢字する	(口授する、口伝する)
	口+V	(口説き落とす、口説く)
	V 二+口+V	(搔き口説く)
相の類		

表 17 に示すとおり、C タイプにおいては、体の類でも、用の類でも<話・話し方>の意味用法を表す。つまり、C タイプの意味用法は<話・話し方>の 1 つしかない。

#### 4.3.6 5 タイプ意味のまとめ

5 タイプの意味用法をまとめると、<口><話・話し方><人(人間)><物事の初め><味・味覚><絵><音><化粧品><友人などの誘いがあること><生活><態度・様><残念><種類><



時間 > < 出入り所 > < 大きさ・サイズ > < 手数料 > < 薬 > < 専有名詞 > < 命令 > < 状況 > の計 21 の意味用法があることがわかった。

表 18 5 タイプにおける意味用法の分布状況

意味用法	A1 タイプ	A2 タイプ	B1 タイプ	B2 タイプ	C タイプ
口	✓	✓	✓	✓	
話・話し方	✓	✓	✓	✓	✓
人・人間	✓			✓	
物事の初め	✓	✓			
味・味覚	✓	✓			
絵	✓ <sup>18</sup>				
音	✓				
化粧品	✓				
友人の誘い	✓				
生活	✓			✓	
態度・様子	✓			✓	
残念	✓				
種類		✓			
時間		✓		✓	
出入り所		✓	✓	✓	
大きさ			✓		
手数料			✓		
薬			✓		
専有名詞				✓	
命令				✓	
状況				✓	
計	12	7	6	10	1

表 18 に示す通り 5 タイプの意味用法の用例数はそれぞれ 12、7、6、10、1 あり、A1、B2 タイプはともに 10 かそれ以上あるのに対して、C タイプは 1 つしかない。意味用法数の順位は A1 > B2 > A2 > B1 > C である。

意味用法の内容で、5 タイプすべてで使用されているのは口の基本義である < 話・話し方 > で、C タイプを除いて、他の 4 タイプは身体部位 < 口 > も用いられる。ユニークな用法に関しては、A1 タイ

<sup>18</sup> 太字マーク「✓」は単なる 1 つのタイプが使われているユニークな意味用法を表す。

プの<絵><音><化粧品><友人などの誘いがあること><残念>の5つ、A2タイプの<種類>の1つ、B1タイプの<大きさ><手数料><薬>の三つ、B2タイプの<専有名詞><命令><状況>の3つが挙げられる。

## 5. おわりに

本論の調査によると、BCCWJにおいて、5タイプ語彙数の順位はA2>A1>B2>B1>Cで、『分類語彙表』においてはA1>A2>B1>B2>Cであった。C(口)の使用率が低いことは二者同じであるが、A1、A2、B1、B2の分布に関しては、BCCWJは語尾が<sup>くち</sup>口<sup>ぐち</sup>、<sup>こう</sup>口<sup>こう</sup>で終わる形は語頭が<sup>くち</sup>口<sup>こう</sup>、<sup>くち</sup>口<sup>こう</sup>で始まる形より多用で(～<sup>くち</sup>口<sup>くち</sup>><sup>くち</sup>口<sup>くち</sup>～>～<sup>こう</sup>口<sup>こう</sup>><sup>こう</sup>口<sup>こう</sup>～)、それに対して『分類語彙表』は語頭が<sup>くち</sup>口<sup>こう</sup>、<sup>くち</sup>口<sup>こう</sup>で始まる形は語尾が<sup>くち</sup>口<sup>ぐち</sup>、<sup>こう</sup>口<sup>こう</sup>で終わる形より多用で(口<sup>くち</sup>～>～<sup>くち</sup>口<sup>こう</sup>>口<sup>くち</sup>～>～<sup>こう</sup>口<sup>こう</sup>)、二者に差異性があることがわかった。

『分類語彙表』においては、「類別」では「体の類」が、「部門別」では<人間活動—精神および行為>が、「中項目別」では<言語>がそれぞれ多用されている。語彙構造の形式数は28に達し、意味用法は21あり、「口」「話・話し方」が多く使われている一方で、「絵」「音」「化粧品」などのユニークな用法も10ある。

また、各品詞と共起する「口」のコロケーションの意味用法は李(2022)では9種あるが、本論の調査では21の用法に達し、より豊かであることがわかった。

紙幅で本論は身体部位詞である「口」の読み方(BCCWJと『分類語彙表』)、語彙構造(『分類語彙表』)、意味用法(『分類語彙表』)を中心にして究明した。今後はBCCWJにおける「口」用例の語彙構造、意味用法を引き続き明らかにしてから、『分類語彙表』との差異点を対照していきたい。

## 参考文献

- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ) (2022年10月28日閲覧)
- 『分類語彙表—増補改訂版』(2004) 国立国語研究所 大日本図書株式会社
- goo 辞書 <https://dictionary.goo.ne.jp/word/%E5%8F%A3%E4%BB%B%E3%81%9B/> (2023年7月閲覧)
- Goo 国語辞書 [https://dictionary.goo.ne.jp/word/%E5%8F%A3\\_%E3%81%8F%E3%81%A1%29/](https://dictionary.goo.ne.jp/word/%E5%8F%A3_%E3%81%8F%E3%81%A1%29/)
- 有菌智美 (2005) 「身体部位(「手」・「口」)を含む慣用表現の意味分類」『日本認知言語学会論文集』(5)、横浜、日本認知言語学会、pp.487-496
- 河野花織 (2017) 「日英言語表現における身体部位詞の意味拡張」『フォーラム人文学』(15)、大阪、大阪市立大学大学院文学研究科・文学部、pp.12-24
- 田中聡子 2002 「「口」の慣用表現—メタファーとメトニミーの相互作用—」『言葉と文化』(3)、名古屋、名古屋大学大学院国際言語文化研究科、pp.5-20
- 宮地裕 (1982) 『慣用句の意味と用法』、東京、明治書院
- 三好準之助 (2008) 「語彙の対照研究のための多義構造の記述モデル」『京都産業大学論集』人文科学系列(38)、京都、京都産業大学、pp.1-33
- ラダポーン・サイソンプーン (2008) 「身体部位詞「口」の意味拡張：日本語とタイ語の比較を中心に」『日本認知言語学会論文集』(8)、東京、日本認知言語学会、pp.12-21
- 李毓清 (2019) 「身体部位詞「口」のコロケーションの考察—形容詞あるいは形容動詞と共起した場合—」『育達科大學報』(47)、苗栗、育達商業科技大學、pp.160-188
- 李毓清 (2020) 「身体部位詞「口」のコロケーションの考察—名詞と

共起した場合一」『台湾日本語文學報』(47)、台北、台湾日本語  
文学会、pp.99-123

李毓清 (2022a) 「身体部位詞「口」のコロケーションの考察—中国  
語の分類語彙表とコーパスを中心に—」『育達科大學報』50、苗  
栗、育達商業科技大學、pp.47-68

李毓清 (2022b) 「「口」と共起するコロケーションの考察—品詞を中  
心に—」『台湾応用日語研究』(30)、新竹、台湾応用日語学会、  
pp.1-26